

<目的>本研究では、晩婚化要因検討のために、未婚者の結婚イメージおよび家庭観が結婚選好性にどのような影響を与えるかを分析する。

<方法>郵送回収法による質問紙調査。対象：首都圏居住のライフデザイン研究所モニターの内、20～39歳の有職未婚男女。時期：1991年10月。有効票数：358票（回収率90.2%）

<結果>結婚イメージおよび家庭観に関するクラスター分析を行ない、対象者を4群に分類し、結婚選好性との関連を検証した。（Ⅰ）群：結婚イメージが全体的に希薄で、家庭観が最も保守的でない。属性別の χ^2 検定により、女性、30歳以上、親と別居、年収400万円以上の特性を有することが判明した。結婚選好性は4群中最低で、「結婚するつもりはない」「わからない」と回答している。（Ⅱ）群：「夢」「親からの独立」「忍耐」「苦勞」「責任」などの結婚イメージを強く有し、「育児は母親がする」「家事は妻がする」など家庭観が最も保守的である。男性、30歳以上、親と同居、年収400万円以上が多い。結婚選好性は4群中最高である。（Ⅲ）群：「安定」「共同生活」の結婚イメージを有する。家庭観はⅠ群の次に保守的ではない。女性、29歳以下、親と同居、年収400万円以下である。結婚選好性はやや低く、「理想的な相手がみつかるまでは結婚しない」と考える。（Ⅳ）群：「幸福」「暖かい家庭」との結婚イメージを有し、Ⅱ群の次に家庭観が保守的である。男女ほぼ同数、25歳以下、親と同居、年収300万円以下の特性を持つ。結婚選好性はやや高く、「できるだけ早く結婚したい」「ある程度の年齢までには結婚したい」と意識している。